

まなびの森

校長通信第8号 令和元年.11.1
廿日市市立吉和小中学校
校長 森岡 勝司
TEL(0829)77-2010

教育目標「夢や目標をもち、自己実現をめざす児童生徒の育成」

韓日交流授業が始まりました！ そして明日は吉和文化祭です！

公開研究会を終え、10月15日(火)には韓日交流授業の第1回目を行いました。韓国のドリームスクールという中高等学校とスカイプを通じての英語の授業ですが、本校からは1年生が日本で紹介したい人物について説明し、2年生は吉和小中学校の紹介をしました。笑いありのほのぼのとした雰囲気でした。韓日友好のために、取り組んでいきます。



明日はいよいよ吉和文化祭です。小学生は今人気のある「パプリカ」の合唱と「ルパン三世のテーマ」の合奏を、中学生は「群青」の合唱と「まい・ほ一む大作戦！～新築庭付き 一戸建て幽霊つき」の劇を披露します。さらに、VOICE2019で披露する児童生徒による主張、やまびこ太鼓の演奏があります。限られた練習時間の中での表現の場となりますが、多くの方々に足を運んでいただきたいと思えます。よろしくお願いたします。

さて、以前からお話ししておりますが、私には1つこだわりがあります。それは合唱です。技術的なうまさを追求すればきりがありません。吉和学園の同世代の仲間とともに歌う機会は二度とありません。児童生徒の皆さんは、歌詞に心を乗せ、日頃から支えていただいていることに感謝し、その思いを込め、聴き手に希望と勇気を与える合唱をと期待しています。

今回披露する中学生の合唱曲は「群青」です。この曲は、福島県の南相馬市にある小高中学校の小田美樹教諭によって作詞されたものです。小田美樹先生の手記を掲載します。

平成24年度の卒業生は東日本大震災当時の1年生でした。106名いた学年の生徒のうち2名が震災時の津波の犠牲となり、97名がその後の原発事故による避難のため、北は北海道、南は長崎まで散り散りとなりました。4月22日にやっと市内の中学校を間借りして学校を再開した時には、学年の生徒はたったの7名となっていました。

ある日、誰がどこにいるかを確かめながら仲間の顔写真を大きな日本地図に貼り付けていると生徒達は口々に「遠いね」「どうやったら行けるの?」「でもこの地図の上の空はつながっているね」などの気持ちを述べました。その日から、「群青」の詩の核となる生徒達の日々のつづやきを綴る毎日が始まりました。校歌に「浪群青に躍るとき」という一節があることから、文化祭は「群青祭」という名称であり、「群青」とは本校に関わる誰もが自分たちの色と感じている色の名前であり、私達の絆そのものです。「群青の子ら」は「群青の町」で再び集う日を思い描き、今日もどこかで同じ空を見上げて頑張っているはず。そして、そう思い続けることが、私がここで今日を生きる力ともなっています。いつかあの美しい小高で、「群青の子ら」と再開できる日を信じています。